

プラネタリウム聞き書き

日本に於いて最初にプラネタリウムの価値と其の構造とを一般に紹介されたのは山本一清博士であつて、其れはドイツ國に初めてプラネタリウムが出来た1926年の翌年、即ち1927年であつた。(「天界」第74號)しかるに、其れと殆んど同時に、即ち昭和二年に大阪電気軌道株式會社(社長金森又一郎氏)は早くも此のプラネタリウムを生駒山上に設置することを計畫し、たまたま某氏が歐洲へ出張せられるのに委嘱し、イエナ市で實地にプラネタリウムを視察せられたが、結局、設置場所と其の興業價值調査に關して學的權威者との接觸を缺き、計畫を止められたといふ。

次いで今から約二年前、阪神電鐵では甲子園にプラネタリウムを建設することを計畫されたが、之れも場所が不適當なるを認め、中止されたといふ。

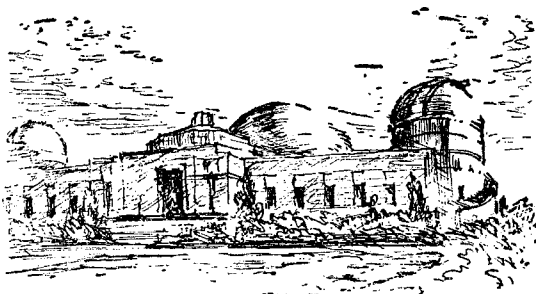
こんなわけで、既に2度までも計畫が中止されたが、今般の大阪市電氣局は始めより山本博士を學術顧問として計畫を進め、遂に建設の決定を見るに至つた次第である。尙ほ聞く所によれば、神戸のフレ1ザ1會社が更に又或る方面からの内交渉を受けて、プラネタリウム輸入の見積りをしてゐるとのことである。

又、東京の科學博物館でも數年來プラネタリウム建設の希望を有つてゐる由であるが、未だ文部省の豫算に計上されるに至らない。



ロスアンゲレス市のプラネタリウム開館

米國ロスアンゲレス市グリフィス公園内に建設中であつたGriffith天文臺は去五月14日午後8時開館式を舉行了。此の天文臺は民衆教育の天文臺で三つの



ドームを有し、其のうち二つは天體觀測用の赤道儀望遠鏡を備へ、一つはツ

アイス製のプラネタリウム用のドームである。



フィラデルフィアのプラネタリウム成る

米國で第二番のプラネタリウムが昨年末 Philadelphia 市の Benjamin Franklin Memorial and Franklin Institute に出来上つた。Planetarium の事は天界第74號に其の構造を精しく書いたことがある通り、元々獨乙國 München 市の Deutsches Museum の主任 Oskar von Müller 氏が考案し、Carl Zeiss 會



社の Bauerfeld 博士が設計したもので、ドイツには1926年以來既に多く作られてゐるが、米國では1928年 Chicago 市で Adler 氏の寄附金により作られ、昨1933年の世界博覽會中の呼びものとなつてゐた。(天界第152號第387頁參照) こんどの Philadelphia 市のプラネタリウムは、直徑68呎(23米)のドームを有し、中に500人の座席がある。そして、Sabine 氏の設計により、特に

音聲の反響を避ける事に注意が拂はれ、完全を期してゐる。

Planetarium 中の最重要な映寫器はアレイ形のもので、中に119個の幻燈器が含まれ、天空に2700ケの星と銀河とが示されることになつてゐる。

費用は故 Cyrus H. K. Curtis の寄附金が約5,000,000ドル、其の他、Franklin Institute から3,000,000ドルが獲られたもので、去十二月開館された。Institute 全體の主任は Howard Mc Clenahan 氏、又、天文部の主任は James Stokley 氏である。〔N. Y. Times, 1933 Oct. 29〕